

第 30 回東北建築賞作品賞選考報告

選考委員長 西野敏信

1、応募作品

- ・小規模建築物部門 4 点
- ・一般建築物部門 15 点
- 計 19 点

2、選考経過

(1) 事前打ち合わせ会議 2009 年 9 月 17 日 (木) 14:00 ~

於 日本建築学会東北支部会議室

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

尚、今回は応募件数が少なかったため、発表 8 分、質疑 3 分、入れ替え 1 分としてプログラムを変更、発表開始を 10 時とした。

(2) 東北建築作品発表会 2009 年 10 月 10 日 (土) 10:00 ~

於 せんだいメディアテーク 7 階スタジオシアター

第 20 回東北建築作品発表会において応募 19 作品の発表が行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

(3) 第 1 次審査会 2009 年 10 月 10 日 (土) 15:15 ~

於 せんだいメディアテーク 2 階会議室)

東北建築作品発表会終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第 1 次審査を行った。1、企画力、2、技術力、3、地域への貢献・文化度、の選考基準を前提とし、2 次審査対象作品として、約半数の 8 ~ 10 作品を選定するため、発表された作品について部門に関わらず 1 人 5 点ずつ投票を行った。その結果より、まず得票数の多かった上位 6 点を選定し、得票数の少なかった 6 点を落選とした。得票数が 2 または 3 の作品 7 点について審査員各自意見を出し合い審議を重ねた後で、最終的に 1 人 3 点ずつ投票を行った。再投票の結果、得票の多かった上位 4 点を 2 次審査対象作品に加えた。この様な手順を経て、小規模建築物部門では 2 作品、一般建築物部門では 8 作品が選定された。

次に、現地審査は 1 作品につき 2 名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された 10 作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、作品

管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行う事とした。

なお、1次審査の落選者へは200字程度の講評を審査委員分担で作成し、審査委員会として送付することを確認した。

(4) 現地審査

現地審査については11月1日から2次審査会(2010年1月30日)までの期間中で選考委員の中からの5チームで現地審査が行われた。各審査委員は担当した作品について、2次審査までに審査報告書を提出する事とした。

(5) 第2次審査 2010年1月30日(土) 13:00 ~

於：日本建築学会東北支部会議室)

第2次審査に当たり、今年は応募作品数が少ないこともあり、小規模建築物部門及び一般建築物部門の区別をせず、数についても制限を設けず、作品賞に相応しい作品を選出することを確認した。引き続き、現地審査対象10作品各々について現地調査報告書及び現地写真スライド等により現地審査担当者より報告を受け、その後審査員全員で作品について質疑、討論を行い慎重に審議を行った。審議終了後、部門に関わらず1人5点以内で入選作品を選ぶ事とし、投票を行った。慎重に審議を重ねたこともあり、1回目の投票で明確な結果が現れ、得票数の多いグループを入選とした。結果として、小規模部門については作品賞1点、一般部門については作品賞3点を選出した。

選考結果

小規模建築物部門

作品賞 桂木の家

【所在地】青森県青森市

【設計監理】フクシアンドフクシ建築事務所

【施主】個人

【施工】一級建築事務所モダンハウス

一般建築物部門

作品賞 いわき平競輪場

【所在地】福島県いわき市平谷川瀬字西作1番地外

【設計監理】日本設計

【施主】いわき市

【施工】I期工事：大林組・常盤開発・東部産業・大和電設工業・クレハ電機(株)・クレハ設備・日化エンジニアリング特定建設工事共同企業体

Ⅱ期工事：クレハ錦建設、大和電設工業、植田電機、小松電工、
欣幸・共栄水道工業所JV、開世工業

作品賞 木立の中のリラクゼーションオフィス /カスタマーサービスセンター

【所在地】宮城県

【設計監理】基本設計/デザイン監修：日本設計

実施設計/施工監理：大林組東北支店

【施主】外資系金融機関

【施工】大林組東北支店

作品賞 大船渡市民文化会館・市立図書館/リアスホール

【所在地】岩手県大船渡市盛町字下館下 18-1

【設計監理】新居千秋都市建築設計

【施主】大船渡市

【施工】戸田建設・匠建設特定建設工事共同企業体

講評

小規模建築物部門

作品賞：桂木の家

作品は、積雪寒冷地に在りながら、大開口を有する吹き抜け空間を中心に構成され、室内空間の開放性や高い採熱・採光性能を創出している。大開口を有するが故に、冬期の温熱環境に不安を感じたが、蓄熱暖房器を床下に配することで、基礎コンクリートが蓄熱体として暖房効率を高め、ペアガラスや樹脂サッシなど、従来の工法や材料が十分に要求性能を満たすことで快適な住環境を構築している。各階の床材や水回りに用いられた青森ヒバの無垢材は、地産地消による産業振興やコストパフォーマンス、シックハウス対策に貢献している。また、ガルバリウム鋼板で構成された外観は、一般的に冷たい印象を与えるが、大開口から垣間見える内装の木目と暖色照明により、行灯のような優しい暖かさを与えてくれる。さらに、歩行者専用道路に隣接されたテラスは、近隣の児童や高齢者に気兼ねなく利用され、設計者の意図した「周辺地域への開き方」を体現する場となっている。積雪寒冷地において、大面積の開口と快適な温熱環境を両立させ、地域社会に開かれた本作品は、暗く閉鎖的な印象を与える寒冷地住宅のイメージを払拭する新たな建築への試みとして高く評価できる。

一般建築物部門

作品賞：いわき平競輪場

競輪場はギャンブル施設としての負のイメージを払拭することが極めて困難な建築物である。それが住宅地に近接して存在するというのであれば、必然的に周辺住民への十分な配慮、施設としての地域への融合性の確保という難題に直面することになる。いわき平競輪場はバックスタンドを地域開放型の施設として位置づけ、「サイクルハウス」と称する小集会施設を併設すること、トラックに囲まれる中央部分を市民広場として開放することなどで、地域との共生という困難な命題を克服した。施設そのものについても、アルミ管のルーバー使用による省エネルギー効果および視覚的効果の創出、三次元 PC の利用によるバンクの実現、バンク下階の利用による車両収容スペースの確保など、様々な技術やアイデアが見られ、それらは十分に評価できる。技術の高さ、アイデアの斬新さ、地域との共生ができる新しい競輪場の現出という困難なコンセプトの実現、施設の完成度の高さは十分に受賞に値するものである。

作品賞：木立の中のリラクゼーションオフィス /カスタマーサービスセンター

「働く人たちの生活の場としてのアメニティ」を重視するというクライアントのコンセプトを実現させた作品。職住近接を理想に、周辺の間山々を眺望できる郊外住宅地の一角に建つオフィス。将来は本社機能の移転も視野に計画されたという。

丘陵地の雑木林に囲まれた広大な敷地の中に、埋もれるように建つこのオフィスは、2階の低層に抑えられ、羨ましいような環境の中にある。外観のデザインは緑豊かなこの環境に、傾斜したガラスカーテンウォール、樹木のような柱、それに不整形なプランとブラウン系の色彩で応答している。内部はリラクゼーションスペースに多くの面積が配分され、短時間でリフレッシュできるよう計画されている。またブラウン系のグラデーションでまとめられたインテリアは音環境にも配慮され、落ち着いたホテルのような趣が印象的である。立地も含めて、今後のオフィスの在り方に指針を与える作品として評価された。

作品賞：大船渡市民文化会館・市立図書館/リアスホール

設計者らがファシリテーターとなり、企画段階から開館に至る各段階で市民参画のワークショップや市民グループによるイベントなどを頻繁に開催し、その過程で市民と対話し、施設運営を支援する市民ボランティアの育成・組織化も図った。その企画構想と実行力は大変に優れている。

建築意匠面では、大船渡の景観要素であるリアス式海岸と穴通磯をデザインモチーフに取り入れ、施設全体の意匠を巧みにまとめている。建物外観は写真では奇抜な印象も受けたが、現地では違和感なく、市民には象徴的であり、地域外からの来館者には大船渡の地域イメージを記憶させるのに成功している。リアス式海岸を RC で表現した構造には若干アクロバティックな感もあるが、解析技術を駆使し、施工的な苦心・工夫の跡が見られ、設計者と施工者が協力して難解な建物を作り上げた技術が評価できる。

開館から1年間あまり非常に多くの来館者数と高い施設稼働率を実現し、地域で活用されている。企画・設計・ディテール・運営に至る迄つくり込まれた完成度の高い建築であり、作品賞に値する。

第30回東北建築賞作品賞選考委員会

- 選考委員長 ・西野 敏信 東北工業大学クリエイティブデザイン学科
- 委員 ・五十子 幸樹 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻
- ・最知 正芳 東北工業大学建築学科
- ・権代 由範 宮城工業高等専門学校建築学科
- ・中田 千彦 宮城大学事業構想学部デザイン情報学科
- ・原田 栄二 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻
- ・西川 竜二 秋田大学教育文化学部生活者科学講座
- ・平岡 善浩 宮城大学事業構想学部
- ・三戸部 裕行 (株)羽田設計事務所
- ・京谷 国雄 日新設計(株)
- ・西田 哲也 秋田県立大学建築環境システム学科